



入札制度改革をすすめるべき。（一般質問から）

当選以来継続しているわたくしの一般質問、38回目となりました。今回は入札制度改革を取り上げました。入札制度については、市民のみなさまからすると身近な問題ではないと感じるかもしれません。ですが、たとえば老朽化した公共施設の改修工事をする場合など、一番安く、高品質な工事をしてくれる事業者を選定するために入札によって契約先を決めており、とても大切な制度です。

今回もあらゆる法令などを参考に、成田市としてるべき入札制度改革の必要性について論陣を張ったところ、さすがに全ての提案とはいきませんでしたが、市執行部は真摯にわたくしの提案を受け止め、改善が図られることになりました。

また、大変光栄なことに業界の新聞に取り上げていただきました。質問の詳細は雨宮のHPに記載しておりますので、ご興味のある方はそちらをご覧ください。

info@ama-shin.net
www.ama-shin.net

活動日記を毎日更新中！！
雨宮しんご 検索

成田空港の容量拡大 50万回へ!? 機能強化案示される!?

成田国際空港株式会社が国、県、空港周辺9市町で構成する四者協議会で成田空港の機能強化策を示しました！

三本目滑走路の整備

三本目滑走路はこれまでいくつかの案が示されていましたが、最終案としてB滑走路の運用を妨害することなく独立運用可能であり、また、住民の立ち退きが約200軒と、他の案に比べて影響が少ない場所が示されました。

B滑走路(2500m) の3500m化

現在2500mのB滑走路を、東関東自動車道が通る北側方面へ1000m延伸することが提案されました。

整備されれば東関東自動車道の上をB滑走路が横断することになります。

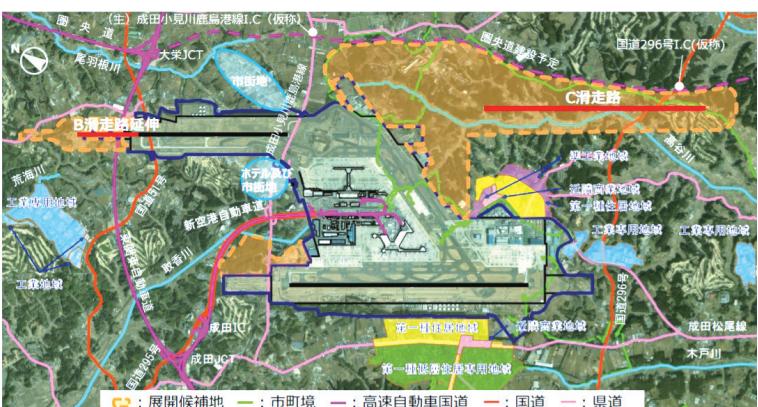
雨宮は、北側の延長ではなく「成田闘争」で残った空港敷地内の未買収地をなんとか取得して南側延伸を図ることで機能を最大化、名実ともに完全空港を目指すべきだと考えていましたが、南側延伸は見送られました。

運航時間の拡大

現在の6時～23時(22時台は10便規制)となっていた運行時間を5時～25時と3時間拡大し、20時間運航とする案が提示されました。これにより、開港時から守られてきた22時台の10便規制を廃止し、2013年に始まった悪天候などやむを得ない場合にのみ離着陸を認める弾力的運用も廃止するという、かなり積極的な提案です。

求められる騒音対策

すべての機能強化が実施され、空港容量50万回が達成した場合、約9000世帯に何らかの騒音対策が必要とされており、夜間航空機騒音や飛行機落下物を懸念する声が騒音地域住民で構成する成田空港騒音対策地域連絡協議会から挙げられています。今後は上記提案を踏まえ、地域交付金や防音工事助成金の拡充など、環境対策や地域共生策について協議が行われることになります。



雨宮真吾事務所

〒286-0018
成田市吾妻3-48-28 TEL・FAX/0476-37-3831

- 1978年10月31日生まれ(38歳)
- 平成19年 2651票で初当選
- 平成23年 4079票で2期目当選
- 平成27年 4526票で3期目当選
- 教育民生常任委員会、医学部設置特別委員会
- 日本サーフィン連盟公認インストラクター

まさに渡りに船! 花植木センター跡地に 新生成田市場が誕生へ!?

公津の杜地区に位置する成田市場は、施設が老朽化し耐震化もされていないことから、再整備の必要に迫っていました。ただ、イオンなど大型ショッピングセンターの台頭により流通の在り方が変化したことに伴い、市場の取扱量が年々減ってきたことから、市場そのものの在り方が議論されていました。

こうしたなか、国は農林水産物の輸出促進を成長戦略の柱に盛り込み、国際線の基幹空港がある成田市に白羽の矢が立ちました！ただ、今の施設では規模も小さく空港から遠い・・・と課題を指摘されたところに、今度は千葉県が空港側にあった花植木センター跡地の処分先を検討していました。そこで成田市は舵を切ることになりました。

国の支援を受けて市場を新設することでコスト削減が期待でき、施設老朽化や耐震化も解消。さら

に迷走していた市場運営も国と輸出拠点化を進め取扱量の改善を期待できる輸出拠点化の条件となる空港そばの土地も手に入る算段も取り付けました。

この機会に築地市場のような観光スポットとなる開かれた新生成田市場となるよう、これから議論に臨みたいと思います。



国際的な附属病院の 整備が決定！ ベッド数は640床に！

医学部(国際医療福祉大学)の誘致に合わせた大学附属病院の位置が成田空港側(畑ヶ田地区)と決まりました！附属病院は8階建で、延べ床面積は約7万7,000m²、病床数は640となる予定です。印旛日本医科大学(印西市)の延床面積が約6万m²、病床数600ですので、いかに大きな施設となるか想像いただけるかと思います。

また、診療科についても印旛日本医科大学の28科を上回る、全診療科39科の開設が予定されています。このことにより、市民の皆さんのが先進医療や高度医療を身近で受診する機会が増えることが期待できます。開院後は、1日に2000人の外来患者を迎えることを想定し、外国語ができる医師やメディ

カルスタッフを配置することで、医療ツーリズムにも対応します。病院開院は2020年で、最先端医療を提供する国際的な附属病院が成田市に整備されることになります！



(国際医療福祉大学 HP より引用)